

VISTA 1 ユーザーレポート

西日本放送株式会社 様

Vista 1 -22F



ラジオ第 4、第 5 スタジオを Vista 1 で更新



西日本放送株式会社
放送実施局 技術運行部
戸田 裕之

西日本放送では、2015 年春頃より約半年の期間で、ラジオマスターと 5 つのラジオスタジオ設備の更新を行いました。今回、その内の収録用のラジオ第 4 及び 5 スタジオへ VISTA 1 22Fader を導入しました。

■スタジオ更新の経緯

これまで使用してきた音声卓は、昭和 58 年の導入以来 32 年が経過しており、フェーダーやスイッチなどの劣化が著しく、日々の収録作業に支障をきたす可能性が高くなってきました。そのため、マスター設備更新にあわせることにより、スタジオ更新作業もスムーズに行えると判断し、ラジオ第 4 及び 5 スタジオのシステム入れ替えも行うことになりました。

■機器選定の経緯・選定の理由

制作サイドの観点から、収録オペレーションはディレクターのみで行うことが多いため、できるだけシンプルで操作が解りやすい音声卓を選定する方針で検討を開始しました。その観点で、フェーダーの色分け、EQ・COMP など音声卓デ

スク表示の色分けが解りやすく、ワン・アクションでほとんどのパラメーターにアクセス・操作できる点の評価が、非常に高かったです。また、メーターブリッジの平らな角度により、メーターブリッジ上に EIA2U サイズの 8 連 VU メーターを設置しても、サブ側のディレクターとスタジオの出演者との視認性が良く、アイコンタクトによるコミュニケーションがしやすい点も現場としては非常に大切です。その様な観点から VISTA 1 は要求事項をカバーできると判断して選定しました。

■技術的には、

本スタジオはラジオ収録スタジオですが、テレビ CM の音声収録にも使用しますので、音質にも非常にこだわりました。またラジオ収録スタジオは、土・日曜日の稼働率が低く、その反面、テレビのスポーツ中継は主に週末に行われることが多いため、中継に持ち出すことも想定・視野に入れました。コンパクトでオールインワン、社内でも中継用の設定もできる、その上コストパフォーマンスにも優れた 1 台が VISTA 1 でした。結果、入出力数フェーダー数モニター数などのスペックも現場の需要にマッチし、外部のカスタム機器を必要とせず、標準仕様で運用できることもあり、選定の大きなポイントになりました。

■主な仕様

ラジオ 4 スタ・5 スタ共通仕様
 コンソール STUDER VISTA 1 22Fader
 マイク SENNHEISER ME 36
 録再機器 HIBINO BE200 II
 Pro Tools 11
 MacBook Pro +AKAI EIE Pro
 DENON DN-650R
 TASCAM CD-6010
 スピーカー GENELEC 1032 (Main)
 GENELEC 8020 (PFL)

■導入後

32 年ぶりの更新ということで、見た目にも、音質的にも劇的に改善され、制作、技術スタッフとも大変嬉しく思っております。これからどんどん VISTA 1 の機能を使いこなし、良い番組制作ができるように日々精進して参りたいと思います。最後に、この度の更新工事でご協力して頂いた各業者様に厚く御礼申し上げます。

